



No. 157 2025.5  
 (株) よかネット

NETWORK

いちご輸出の現状 ..... 2

見・聞・食

原団地のコミュニティ・カフェ「はらの木」は地域の居場所、  
 縁側となっている ..... 4

みんなで防災 2025 ～福岡県西方沖地震から 20 年 ..... 7

お知らせ

「Genuine Sustainability Labo」が加わりました ..... 10

近況

志賀島体験農園も 12 年目 ..... 11

ジェンダーギャップの解消 ..... 12

自治会副会長よもやま話 ..... 13

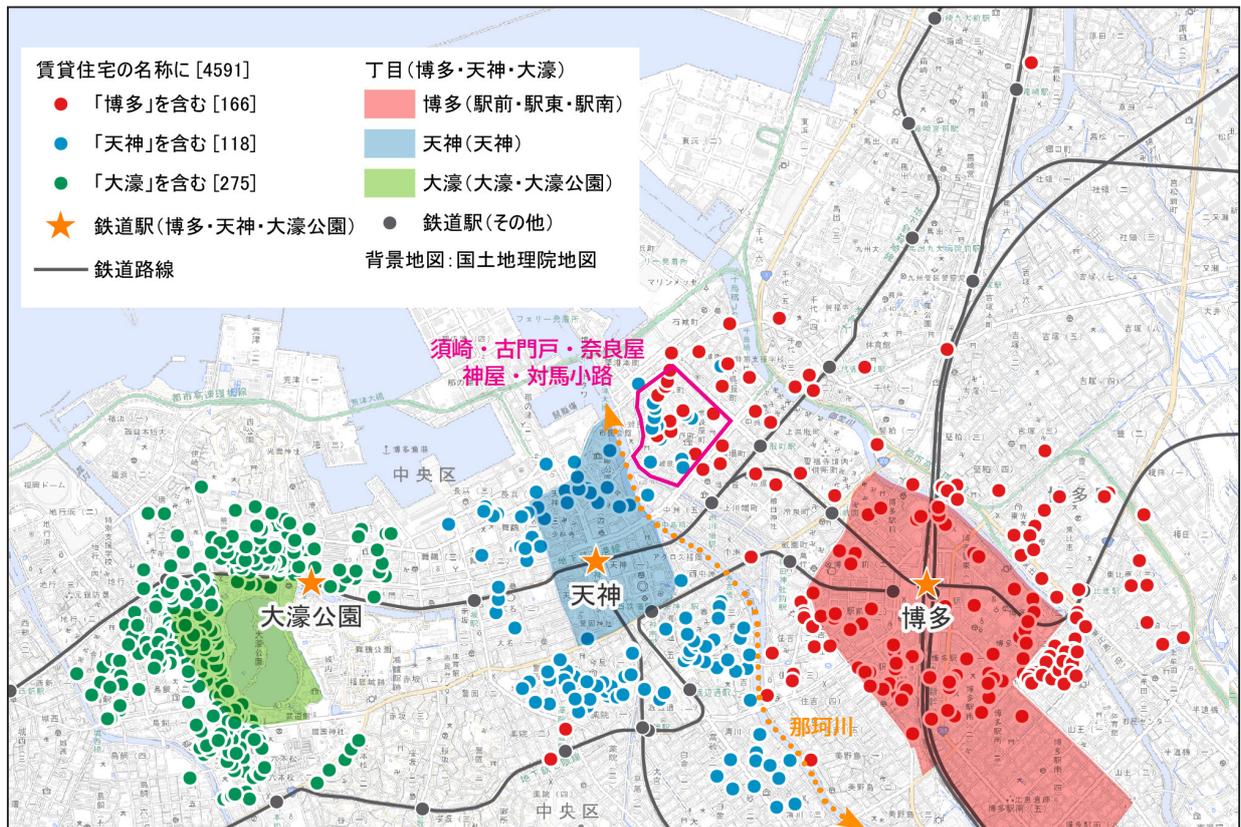
表紙解説 ..... 14

● 「博多」「天神」「大濠」の地名ブランドはどこまでか？

福岡をご存知の方は「博多」「天神」「大濠」と聞いて、どこまでの範囲を思い浮かべますか？今回は、民間賃貸住宅に付けられる建物名称から、その範囲を探ってみました。（データの出典等は表紙解説に記載）

今回抽出した住宅 4,591 件のうち、建物名称に「博多」を含むのは 166 件、「天神」を含むのは 118 件、「大濠」を含むのは 275 件ありました。このうち、町丁目（博多：博多駅前、博多駅東、博多駅南・天神：天神・大濠：大濠、大濠公園）内に立地する割合は「博多」40.4%、「天神」12.7%、「大濠」20.4%となっています。逆に町丁目内に立地している住宅のうち、「博多」を含む割合は 71.3%、「天神」では 83.3%、大濠では 96.6%となっています。分かりやすさもあるのでしょうか、「博多」「天神」「大濠」という地名がステイタスとなっていることも伺えます。

立地の観点で見ると、「博多」を含む住宅は箱崎や薬院などにもあり、比較的広範に分布しているようです。また、「博多」と「天神」を含む住宅の境界が那珂川に沿っているのも興味深いところです。古門戸・奈良屋等エリア（図中、紅紫枠）では「博多」9件、「天神」11件と、両地名が入り混じっています。その築年をみると、かつては「博多」が多く建てられていますが、近年は「天神」が多くなっているようです。



図：建物名称に「博多」「天神」「大濠」を含む民間賃貸住宅の分布

## いちご輸出の現状

原 啓介

### ● 2024 年はいちごの輸出額が対前年比 1 割減

農水省が 2 月に公表した資料によると、農林水産物・食品の輸出額は対前年比プラス 3.7%の 1 兆 5,073 億円で、農産物に限って見ると 2024 年は対前年比プラス 8.4%であった。

農産物のうち、果物、特にりんご、いちご、桃、メロン、シャインマスカットといった品種は外国産に比べて甘く、見た目も美しい競争力の高い作物だが、中でもいちごは福岡、熊本をはじめとした九州各地で生産されており、当社は輸出計画策定・輸出環境の市場調査業務やマルシェなどの仕事で生産者との関わりも多い。そこで本稿では、いちごの輸出の現状について調べてみた。

農水省「農林水産物輸出入統計」より、最近 5 年間の日本のいちごの輸出額を集計すると、2020 年は 26.3 億円だったのが 2023 年は 61.6 億円と、4 年間で倍以上に拡大した。しかし、2024 年は 54.0 億円と、対前年比 12.3 ポイントの減少となった。

当社が支援しているいちご農家の方々によると「2024 年は秋以降も 20 度前後の日が続き、気温が下がらなかったため花芽の形成が遅れ、12 月のいちご収穫量は例年の半分以下だった」「高温のため炭疽病(カビ)が発生し、いちごの株が大量に死んでしまった」など、酷暑が輸出額減少の大きな要因とのことだった。西日本各地の 12 月の収穫量は、どこ

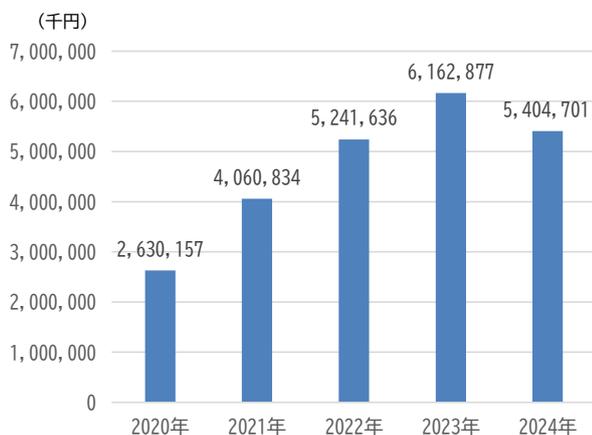


図 1：直近 5 年間のいちごの輸出額の推移

も例年の半分以下だったそうで、昨年のクリスマスから年明けにかけての書き入れ時に出荷できなかったため経営上のダメージも大きい。

前述の農林水産物輸出入統計の月別データを見ると、2023 年 12 月の輸出量は 12.2 億円だったのに対して、2024 年は 9.1 億円と約 3 割減となった。

なお、熊本県内の柑橘農家の方々とも一緒することが多いのだが、柑橘は前年比 5 ~ 6 割減の方々が多く、生産者によっては 9 割減のところもあったそうで、この原因は裏作の年だったことに加え、酷暑のダブルパンチといった声が聞かれた。

政府は 2020 年に農林水産物・食品の輸出額を当時の 1 兆円から 2030 年までに 5 兆円に伸ばすという意欲的な目標を掲げているが、目標達成に向け、温暖化に強い品種の開発や温暖化対策の設備投資が重要な課題となっている。

### ● 香港向けは不調、台湾向けが好調

日本のいちごの主要な輸出先は、香港であり、2023 年・2024 年の 2 か年連続で年間輸出額の約 7 割を占める。香港のバイヤー・シェフにお話を聞いたところ、香港は中国経済の不調の余波を受け、中国からの観光客減少・客単価減少、さらには香港人

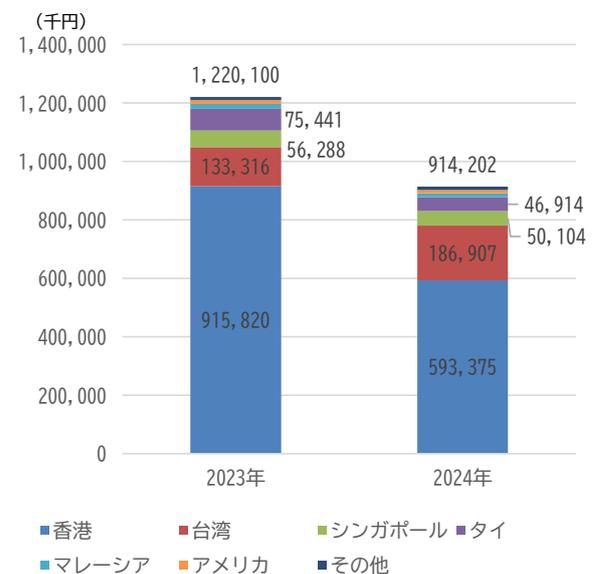


図 2：2023 年と 2024 年の 12 月のいちごの輸出額

の単価減少、深センへの日帰り観光ブームによる香港内での飲食・買い物需要減少、香港での日本各地や韓国産いちごとの競争激化による値崩れなど様々な逆風が吹いているようだ。結果、香港向けのいちご輸出額は対前年比3割減であり、輸出額全体の減少への影響は大きい。

一方で2024年12月～2025年1月で好調だったのは台湾向けの輸出で、2024年12月の台湾へのいちご輸出額は対前年同月比140.0%と、主要輸出先の中で唯一前年同月比プラスとなった。台湾経済が成長を続け、日本とのビジネス・観光の交流が拡大するなか、農産物の輸出先としての存在感も増している。

ただし、台湾はフルーツの生産が盛んな地域であり、それだけに自国市場を守るための残留農薬規制が厳しい。台湾へのいちご輸出額の増加を受けて、新規に台湾向け輸出に取り組む生産者が拡大したことで、残留農薬規制をクリアできていないままに輸出し、検査で不合格になる生産者が続出しているとのこと。すでに台湾に相当量を輸出している生産者からは、「輸出に不慣れな生産者が増えたことで日本から台湾向けのいちごの検査が厳しくなった」「台湾市民の中で日本産いちごは農薬残量が多いという風評被害が広がっている」といった新たな課題の声も聞かれており、生産者団体や自治体間での残留農薬規制を突破するためのノウハウの蓄積・共有が期待されることである。

#### ●次なる有望市場は東南アジア

香港・台湾に次いでいちごの輸出額が大きいのがシンガポール、タイ、マレーシアであり、これら東南アジア3カ国に香港、台湾を加えた5カ国の輸出額は2024年の年間輸出額の97.4%を占める。

特に、タイ、マレーシアは人口を合計すると約1億人の規模を有し、今後もさらなる人口増、経済成長が進む有望市場である。

タイには高島屋、マレーシアには西武といった日系の百貨店が出店し、百貨店内のショップでは日本産の高級いちごが1パック7,000円～2万円といった高値で販売されるとともに、イオンやドン・キホーテでも百貨店をやや下回る価格帯で販売されてい

る。こうした日本の様々な小売店の現地進出とともに、日本産のいちごのさらなる浸透が期待される。

#### ●アメリカ向けの輸出事業の先行きは不透明

香港、台湾、シンガポール、タイ、マレーシアに続いて輸出額が大きいのはアメリカで、当社が支援しているいちご生産者2社はいずれも、外交関係が比較的安定し、購買力が大きいアメリカ向けの輸出拡大を最重要課題として、高級飲食店・高級小売店といった事業者へのサンプル送付や、一般消費者向けの越境ECへの出品といった輸出拡大事業に注力されていた。しかし、今後のアメリカ向けの輸出については、相互関税の影響などでしばらくは不透明な状況が続くようだ。

#### ●インバウンドの増加とともに、モノの往来も増えることに期待

いちごに関しては前述のとおり酷暑、香港経済の悪化の影響で輸出額が減少したが、国内生産者は暑さに強い品種、かつ果皮が適度に固い輸出に適した品種の育成に取り組んでいる。

また、いちごの梱包資材は、「ゆりかご」という輸出向けのクッション性の高いパックが浸透していたが、更に緩衝性・伸縮性に富む「ハンモックトレイ」が開発されるなど、物流の技術革新も日進月歩で進んでいる。

さらに日系小売店・飲食店への海外展開では、ドン・キホーテ、百貨店、回転寿司チェーンといった大企業から、少人数相手の高級店など様々なレイヤーで続々と出店が進んでおり、外国人が母国で日本産の食品に触れる機会は年々広がっている。

これにより、海外における日本の飲食・小売・サービス業の品質に対する理解が促進され、一次産業・製造業・サービス業の技術革新、人流・物流の拡大などにより、外貨獲得の手段としての「日本の食」の存在感は増すと思われる。

世界の貿易における不確実性が高まる中ではあるが、こういう情勢だからこそ、お役に立てることもあるかもしれない。今年度も、観光誘客、物産販路拡大の相乗効果による地域の産業振興の一助になればと思う。

(はら けいすけ)

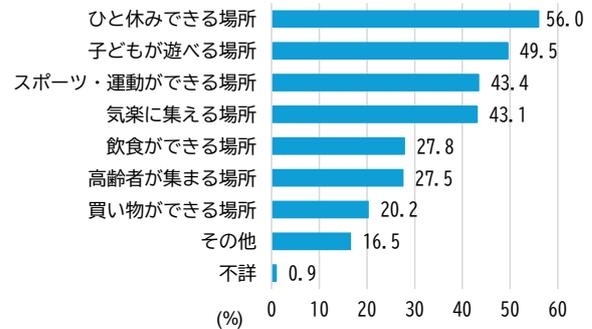
## 原団地のコミュニティ・カフェ「はらの木」は 地域の居場所、縁側となっている

山田 龍雄

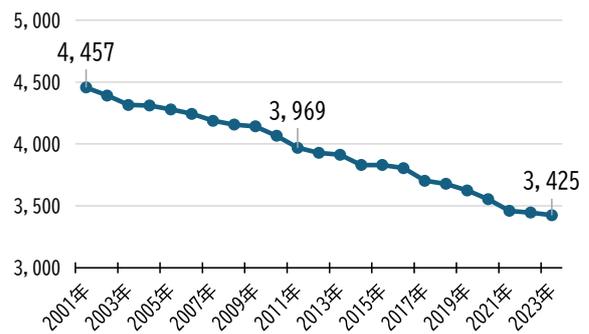
弊社は、2002年(平成14年)にNIRA(総合研究開発機構)の助成研究で「個族化社会のネットワークの形成」というテーマで、単身世帯の増加傾向、地縁、血縁のつながりの弱体化、家庭内での個食化などの変化などを踏まえ、特に青壮年の個族化の実態を把握し、「個」であることが「孤独」ということではなく、「個人」として自立して生きていくためのネットワークをどのように形成していくのかを研究したことがあった。その研究の事例調査として障がい者や高齢者など多様な人々が交流するスナック、高齢者施設に併設されたコミュニティ・カフェ、野菜作りで緩やかなコミュニティを作っている場など、公民館や集会所といった公的な施設ではない、居場所、たまり場を取材したことがあった。

私も校区の住環境の維持向上を目的とした「まちづくり協議会」を2013年(平成15年)に有志で設立し、活動を続けてきている。活動の中で2018年(平成30年)に都市高速道路アイランド線延伸の計画が上がった際に、高架下の空間利用を検討する機会を得た。その時に校区内住民のニーズを把握するため、アンケート調査を行った。その結果は右図に示すように「ひと休みできる場所」約56%、「気楽に集える場所」約43%と、気楽に休み、集まれる場所のニーズが高いことがわかった。私も常々、公民館だけではなく、地域には誰もが気楽に出入りでき、自然と交流が生まれる場が必要ではないかと思っていた。これまで当機関紙でも「居場所」となっているところを取材し、報告(※詳細文末)してきた。

今回、たまたまTVのローカルニュースを見ていたときに、UR(都市再生機構、旧日本住宅公団)の原団地で実施しているコミュニティ・カフェ「はらの木」のことが流れていた。これは一度、取材しておきたいと思い、URの知り合いを通じて、カフェ担当者の岡本彩花さんと森實あかりさんを紹介していただき、お話を聞いてきた。



K 校区住民アンケート「高架下を利用する場合、どのような場所になったら良いと思うか」  
(複数回答：回答数 327 票、2018 年)



原団地の人口推移(2001～2023年：住民基本台帳)

### ●原団地は、20数年間で約千人減少

原団地は福岡市の天神から西に約6km、地下鉄「藤崎駅」から南側約1km、明治通りと国道202号の間にある団地で開発規模約18ha、1,870戸の大型団地である。地下鉄とバスを使うと天神まで約30分と比較的便利な場所にある。

原団地は、URが1967年(昭和42年)に団地として賃貸を開始してから58年が経過し、高齢化等による世帯規模の縮小や、全住棟がEVなしの中層5階建てのため、4～5階での空き住戸の増加等により居住者は減少し、現在は約3,400人(1.82人/戸)となっている。住民基本台帳(各年9月末人口)の2001年(H13年)からの推移をみると、4,457人から2023年(R5年:3月末)には3,425人となっており、22年間で1,032人減少している。



天神から約6km、地下鉄藤崎駅から約1kmと比較的便利な団地（背景地図：OpenStreetMap）

### ●事業のきっかけはURからの働きかけ

コミュニティ・カフェ「はらの木」の事業主体は、団地内にある（学校法人）大原幼稚園である。

団地内の人口減、高齢化の進行等で子育て世帯が少なくなり、大原幼稚園がURと連携し、子育てがしやすい団地づくりの一環として、2019年（令和元年）から子育てイベントを開始したことに始まる。ユニークな子育てイベントの一例としては、団地内にある公園を幼稚園児や入園前の子どたちと廻りながらビンゴをする「お散歩ビンゴ」などを行っていた。

このような子育てイベントを実施した関係もあり、2023年（令和5年）の夏ごろに原団地内の商店街の一室が空き店舗となったときに、URから誰もが利用できるカフェみたいなことができないかと相談があった。大原幼稚園は、これまで原団地にお世話になってきたこともあり、自ら事業者となり、秋ごろから準備に入り、空き店舗を改修し、2024年（令和6年）6月15日にコミュニティ・カフェ「はらの木」としてオープンした。

### ●メニュー開発は保護者と一緒に考案

カフェ担当者の岡本さんと森實さんも飲食店の経験はなく、メニュー開発に際しては、幼稚園の保護者の方7～8人が協力者となり一緒に取り組み、コーヒーの淹れ方も、近くのコーヒー店で教えてもらったとのこと。営業時間は10時から18時、営業日は火曜～土曜の週5日間である。メニュー表をみると、「おにぎりセット」「だし茶漬け」「だしキーマカレー」「ガパオムライス」「ナポリタン」と豊富である。



原団地商店街の一角にある「はらの木」



管理が行き届き、外壁改修等が完了しているため、古さを感じない原団地

### ●毎週のイベントと2か月に1回のフリーマーケット

「はらの木」では、団地内に限らず、周辺の居住者も含めて、誰もが楽しめるイベント（まちの教室）を毎週実施している。また、幼稚園の保護者と外部に出店者が協力して2か月に1回、商店街前の広場でフリーマーケットを実施し、地域の人たちの交流促進を図っている。フリーマーケットでは広場にテントを用意しておけば、幼稚園の保護者は手づくりのモノを持って来るそうだ。また、自治会でバルーンアートの得意な人が、ボランティアで参加し、バザーを盛り上げてくれ、非常に人気コーナーとなっている。

### ●子供と高齢者のふれあいも増える

「はらの木」はインスタグラムで主にメニュー、まちの教室、フリーマーケットなどの情報を発信しており、団地内の居住者だけでなく、周辺の人も訪れている。午前中は主に子育て世帯、昼時はランチを食

はらの木

## 4月イベント情報

OPEN 火曜～土曜 10:00-18:00

はらの木ではみんなで楽しめるイベントを開催しております。  
ぜひお気軽にご参加ください！

4/2

0～1歳児さんと保護者の方対象/  
おはなしひろば

4月2日(水)10:30-11:30  
担当：チカ先生  
受講料：500円+1ドリンク

4/3

10～1歳児さんと保護者の方対象/  
おうちに飾れる  
春のモビール制作

4月3日・10日(木)  
11:00-12:00  
担当：沙織先生  
受講料：1ドリンク

4/11

0～3歳児さんと保護者の方対象/  
親子で腰痛肩こり改善  
ストレッチ&絵本読み

4月11日・25日(金)  
10:30-11:30  
担当：けいこ先生  
受講料：500円+1ドリンク

4/18

\お子様大歓迎！/  
世界で1つだけの  
食器をつくらう

4月18日(金)10:30-12:00  
担当：ひめか先生  
受講料：1000円+1ドリンク

4/17

10～1歳児さんと保護者の方対象/  
手で持てる鯉のぼり制作

4月17日・24日(木)  
11:00-12:00  
担当：沙織先生  
受講料：1ドリンク+オーダー

4/22

\どなたでも大歓迎！/  
筆ペンを楽しもう

4月22日(火)10:30-11:30  
担当：なお先生  
受講料：1000円+1ドリンク

「はらの木」の4月のイベント情報

べに高齢者や周辺の住民など多様な人、15時から高齢者というように時間帯で来る層が決まっているという。

担当者の岡本さんと森實さんは、オープン前には、高齢者と子どもとの交流が上手いくのかを心配していたのであるが、逆に子どもと高齢者のふれあいが増え、取りこし苦勞であったとのこと。

「はらの木」は、今では団地の交流拠点、縁側的な役割を果たしているのではないかと思う。

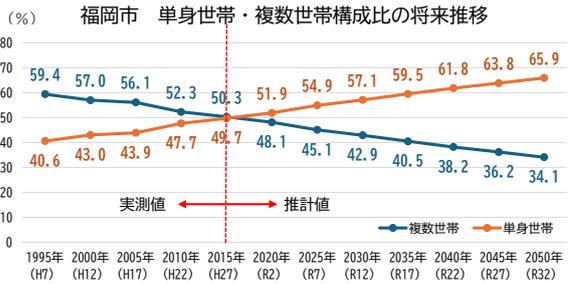
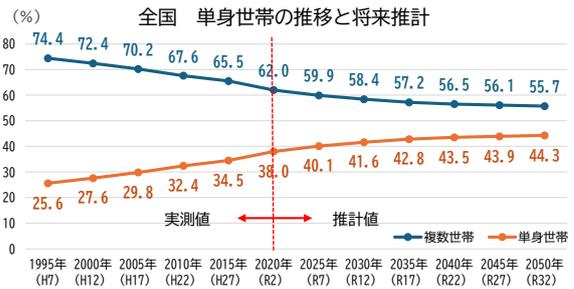
今後、「はらの木」が5～10年と続くことで、団地内の交流がどう変化していくのか注目していきたいと思う。

●益々、小さな居場所づくりは必要

単身世帯数だけに注目すると10年後、2035年の全国の単身世帯数の割合は約43%、福岡市では約60%、10世帯のうち6世帯が単身世帯という将来予測値が公表されている。

また、私が住んでいる校区自治会の加入率は50%以下であり、私が関わっているK町(人口：約7千人)での自治会加入率は51%であった。どこの地域でも自治会の加入率は低下していると言われており、ゆるやかな地縁づくりが失われていっている。

SNSでオンライン上の交流は増えているかもしれないが、対面での交流、地域内での交流は益々希薄になってくるのではないかと危惧される。地縁や



単身世帯の推移と将来予測の比較

血縁を中心として肩を寄せ合あって生きてきた社会から、個人個人が自立して生きていかざるを得ない時代になりつつある。しかし、「個族」が「孤独」とならないためには、個人個人が、意識してゆるやかなネットワークを作っていくことが必要と思うのであるが、全ての人が意識してできることではない。だからこそ、コミュニティ・カフェのような小さな居場所や仕掛けによって、人と人との自然なつながりができれば良いと思うのである。このような社会に対してまち育ての第一人者であった(故)延藤安弘先生が唱えておられた「地域のヒト・モノ・コトがゆるやかにつながり合う地域の安心居場所」(まちの縁側)が、益々必要な時代になってきているのではないかと思う。(やまだ たつお)

※よかネット：居場所づくりの記事

- ・127号：四箇田団地内のコミュニティ・カフェ「しかたの茶の間」
- ・142号：名島茅町のコミュニティパーク事業による集会所づくり
- ・149号：ひのさと48のコミュニティ・カフェ



原団地内商店街の空き店舗を改修し、  
 昨年の6月にオープン



外にもテーブルがあり、天気の良い日は外でも食事が  
 できる。



店内のカウンターコーナー



店の奥にあるキッズコーナー

## みんなで防災 2025

～福岡県西方沖地震から 20 年～

山田 龍雄

今年は、2005年3月20日に発生した福岡県西方  
 沖地震から20年目の節目の年に当たります。

この節目の年に「博多あん・あんリーダー会（以下  
 あん・あんリーダー会）」主催の「みんなで防災 2025」  
 に福岡県建築士会まちづくり委員会・防災部会のサ  
 ポーターとして参加してきました。

ちなみに「あん・あんリーダー会」とは福岡市が  
 2005年から主催した防災士養成講座「博多あん・あ  
 ん塾」を終了した有志の方で、防災の知恵と知識を  
 活かし、地域に根差した防災活動を行うためのネッ  
 トワーク組織です。

「みんなで防災」というイベントは、「防災どんた  
 く」の中のひとつの体験コーナーとして始められた

ものです。当初2009年と2010年の2年間は大名小  
 学校で実施していたのですが、当時の大名小学校  
 の玄関口は明治通りから裏の筋にあり、人目に付き  
 にくいということ、また、大名小学校の統合化の話  
 もあがっていたことから、2011年から新天町商店街  
 サンドーム（からくり時計の下の道路）に場所を移し、  
 コロナ禍の3年間を除き、延べ13回実施しています。  
 新天町商店街サンドームは多くの人を通る場所なの  
 で、そこでイベントを実施することに意味があるとの  
 ことです。

「防災どんたく」自体は2019年に一応、活動の  
 役目は終了したということで、活動中止となりました  
 が、「みんなで防災」のみは継続して実施しています。

私は、毎年実施していることは知らず、今年まで継  
 続して実施していることに感銘し、「みんなで防災」  
 で中心的な役割を担ってこられた牧菌典浩氏（あん・  
 あんリーダー会城南支部）に、そのいきさつ等につ  
 いてお話を伺ってきました。

## ●「防災どんたく」の始まりは実行委員会形成

「みんなの防災」のきっかけとなった「防災どんたく」の発端は、福岡県西方沖地震発生から2年が経過した2007年3月21日に、復興に尽力した各種団体や自治体等への感謝の意をこめて、福岡市役所西側ふれあい広場に「ありがとうふくおか2007」という地震防災啓発イベントを、福岡県建築士会福岡支部が中心となって実施したことにあります。

その後、実行委員会形式で集まったメンバーが一度きりのイベントでは終わらせてはならないという思いから、翌年から改めて実行委員会形式で「防災どんたく」として実施しています。「防災どんたく」とは、参加者が防災の知識や体験を楽しみながらできるという趣旨を込めたネーミングです。

第4回「防災どんたく(2011年)」のパンフレットをみると、参加団体により多彩な防災イベントを実施しています。

表：第4回「防災どんたく」の企画内容

テーマ	主催
防災ふくおか・ロープワーク ～家庭でできる身近な防災・減災～	心肺蘇生 AED を広める会、NPO 法人日本防災士会福岡支部
防災ふくおか・リスクマネジメント 安心・安全・安価な住まいづくりセミナー ～新築・リフォーム制度～	同上
災害図上訓練「助け合うまち 東花畑」	東花畑校区自主防災防犯協議会、読売新聞西部本社
自治会長の挑戦 ～東区松島校区の豪雨災害時の取り組み～	読売新聞西部本社
福岡県地域防災シンポジウム	福岡県、財団法人消防科学総合センター
防災カフェ ～一歩先ゆく住まいの提案～	福岡県建築士会福岡支部、防災どんたく実行委員会
みんなで防災	博多あん・あんリーダー会
親子でサバイバル IN 遠賀～災害時に役立つアウトドア技術～	福岡レスキューサポート・バイクネットワーク、防災どんたく実行委員会

## ●今年の「みんなで防災」は11団体が参加

通常の「みんなで防災」は、福岡市市民局地域防災課、福岡管区气象台、応急手当てを広める会等との団体で実施してきたのですが、今年は節目の年ということで、拡大版「みんなで防災」を次頁に示す11団体が実施しています。

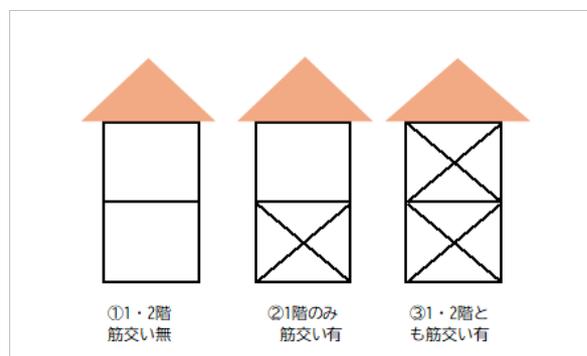
私は、ただの手伝いボランティアとして参加するだけでしたが、主催した「あん・あんリーダー会」は、各団体への連絡・調整、道路上のイベントなので中

央区役所への道路占用許可申請、車をイベント会場に入れるための中央警察署への道路使用許可申請など、調整に苦労されたと思います。

私も自分が住んでいる校区の安心安全部会長として毎年、防災訓練や防災セミナー等を企画し、実施しているので、その苦労は実感します。ちなみに通常、道路を占用した場合、有料になるのですが、「みんなで防災」では長年の功績と公的な利用であることから道路占用料は免除されています。

## ●建築士会の体験コーナーは「紙ぶるる」

「紙ぶるる」とは、紙の模型(2階建ての木造住宅モデル)を使って「筋交い」の耐震に対する有効性を示す簡単な実験ですが、模型を揺らす前に①1階・2階とも筋交い無し、②1階だけ筋交い有り、③1階・2階とも筋交い有りから、どれが一番揺れるかを予想してもらい、実際に揺らした場合との違いを実感してもらうものです。揺らしてみると歴然と揺れ方の違いがわかり、小学生のこどもたちには好評な模型実験です。



図：「紙ぶるる」模型の模式図

コロナ禍前は、「防災どんたく」の体験コーナーのひとつとしてイオンモール香椎浜で、「紙ぶるる」、「液状化実験」、「紙管による避難ブースづくり」などを行っていました。イオンモール香椎浜で実施したときは親子連れも多く、「紙ぶるる」体験者は100人を超えていたのですが、新天町商店街では客層の違いもあり、体験者は3時間で36名と少なく、ゆっくり対応することができました。また、余裕時間ができたので、初めて他のブースを見学でき、楽しませていただきました。

福岡市の「揺れやすさマップ(H30.3作成)」によると警固断層東南部の断層が動く地震は、「30年間

のうちについて起きてもおかしくない」と明記されています。

しかし、福岡県西方沖地震から20年を経過し、地震に対する意識が希薄になりつつあるように感じます。

新天町商店街の再開発の話が持ち上がってきているため、「みんなで防災」も再来年度からは改めて開催場所を考えないといけないとのこと。

コロナ禍を除き、13年間続けてこられた防災啓発活動「みんなで防災」が継続できることを期待します。  
(やまだ たつお)

表：「みんなで防災2025」参加団体

関係機関	所属
福岡管区气象台	業務課・広報係
福岡県総務部防災危機管理局	防災企画課
(公社)福岡県建築士会	まちづくり委員会 防災まちづくり部会
福岡市市民局防災・危機管理部	地域防災課
福岡市住宅都市局建築指導部	建築物安全推進課
福岡市水道局	総務部総務課・総務係
(一社)福岡市薬剤師会	中央区薬剤師会
第一薬科大学	
応急手当を広める会	
日産福岡販売(株)	EV推進部
博多あん・あんリーダー会	



新天町商店街サンドームで開催した「みんなで防災」



建築士会による「紙ぐるる」体験



日産福岡販売(株)によるEV車の給電実験



福岡管区气象台による液状化の実験



水道局による給水車展示・応急給水体験



災害対策医療品供給車両展示・内部見学

## お知らせ

「Genuine Sustainability Labo」が加わり  
ました 畑中直樹・水田真夫・中川貴美子

地域の Sustainability 確保のためには、気候変動対策・脱炭素（環境）、地域の多様なステークホルダー間の関わり（社会）、地域経済循環（経済）のトリプルボトムラインの統合的解決が必要となっており、この4月からよかネットに「Genuine Sustainability Labo」（以下「GSL」）が加わりました。

このGSLは、研究的領域から地域に寄り添った実践、中央省庁～地域、公共～民間、参与・委員・アドバイザーとしての役割、幅広い領域と関わり方を対象としています。

具体的には、大学等研究機関との共同研究等の連携、環境省・経済産業省・総務省・農林水産省等の関連事業、産業界、地方自治体、NPO等各種団体へのサポート・アドバイスなど多様です。対象としている主な分野と具体例は下記のとおりです。

<地域の Sustainability 確保に向けた環境・社会・経済の統合的解決例>

- ・地域経済循環の健全化を含む地域政策転換の総合支援（北海道松前町他）
- ・地域の社会資本ロジックモデル化（国立環境研究所，鹿児島県大崎町他）

<個別分野例>

### ○気候変動対策

- ・再生可能エネルギー、水素（JH2A，五島市他）
- ・気候変動適応策（環境省，広島大学他）

### ○自然資本の活用とサーキュラーエコノミー

- ・森林資源（木造・木質化等地域産材循環（広葉樹含む）、竹林活用など）
- ・イヌワシ等自然再生と茅活用（上山高原エコミュージアム他）

### ○人材育成

- ・Sustainability Organizer（兵庫県）
- ・脱炭素経営スクール（豊田市，トヨタ紡織 Sunshine，兵庫県・神戸市他）

<その他主な参加団体>

- ・日本気候リーダーズ・パートナーシップ（JCLP）準会員／（一社）水素バリューチェーン協議会

（JH2A）会員

発足時のメンバーは下記のとおりです。

### ■畑中直樹（所長）

博士（環境科学）

○福岡出身

・一貫して地域の環境問題・持続可能な地域づくりに取り組むかたわら、大阪大学大学院教員、（財）地球環境戦略研究機関（IGES）元客員研究員をはじめ、行政・企業の各種委員・講師等を務めるとともに、自然再生や森林・木材関係のNPO等の役員としても多数活動しています。

・Sustainability 確保の上で特に重要である2035年までの10年間で、地域のみなさんが中心となって、地域資源を活かし、地域の脆弱性に（誰一人取り残されないよう）目配せしながら互いに信頼関係を築き、助け合いつつ、歴史やコミュニティなどの非経済的価値を大切にしながら、環境・社会・経済の統合的解決に貢献できればと考えています。



### ■水田真夫（副所長）

○高知出身

・スマートコミュニティ、VPP、水素など新たなエネルギー政策立ち上げ多数。

・電気・ガス・水素等の知見を活かし、地域活性化に役立ちたい。新たな環境分野の取り組みにもチャレンジしていきます。



### ■中川貴美子（副所長）

技術士（環境部門）

準木材コーディネーター

○山口出身

・地域持続のための担い手の育成と組織立ち上げ多数。

・気候変動など様々な未知なる課題に直面し、答えのない時代ですが、森林をはじめとした地域資本を活かし、地域の担い手による新たなコトおこしや多様な選択肢づくりに尽力していきます。



近 況

**志賀島体験農園での野菜作りも 12 年目**

志賀島北端に位置する勝馬にある「体験農園：百荘園」で野菜作りを始めて、今年で 12 年目になる。

「体験農園」では、農家が農地を賃貸し、野菜作りの指導を行ってくれる。農作業に必要な用具は準備されているため、長靴、手袋のみを持参すれば、手ぶらで行けるので、非常にありがたい。水も井戸が 2 基あるので、水遣りで困ったことはない。昨年、8 月に苗植えした冬野菜は酷暑のせいなのか分からないが、害虫の大量発生によりキャベツ、白菜のほとんどは虫に食われて網目模様になってしまった。野菜作りは、工業製品と違って天候や害虫などの影響で収穫は思い通りにならない。失敗の繰り返しだから面白いのかも知れない。

私は、地域のボランティア活動等で毎月の土・日曜の半分は制約されるため、ここ 4～5 年は月に 2～3 回行ければよい方である。農作業時間からすると、我が連れ合いがほぼ 8 割、従事しているのでないかと思う。

私は、基本的に連れ合いの指導・指揮（命令）のもと、サポートしているに過ぎないが、たまに畑で農作業をしながら、周囲の山々、澄み切った青空を眺めると、不思議とリラックスし、ストレス解消、また日ごろの運動不足解消になっている。しかし、昨今の酷暑の中での農作業は、身体に堪える。

これまで百姓園では指導農家の人が決めた野菜を栽培する約 8 坪の畑（固定区画）、好きな野菜を自由に栽培することができる畑（自由区画）と区分されていたが、今年からは全て自由区画となった。我が家は夫婦 2 人暮らしなので、食べきれない野菜は近所の知り合いや子どもたちにおすそ分けしている。

我が連れ合いは、おすそ分けした方から「安全で美味しかった」と言われることが、野菜作りのモチベーションになっているようだ。今年も多くの種類の野菜づくりをしたいという連れ合いの希望により、約 18 坪に約 20 数種類の野菜を栽培することにしている。（冬野菜も 20 数種類栽培）

4 月前半は、鶏糞、油粕、苦土石灰を入れての土づくり、種・苗植えは 4 月中旬以降を予定している。種・苗代やガソリン代などを考えれば、購入した方が安上がりかも知れないが、無農薬の新鮮で美味しい野菜を食べられるのは、代えがたい喜びである。

（山田 龍雄）



苗・種植え前の百荘園  
トマト・キュウリ等のための支柱を立てている人も

サニーレタス	レタス
ネギ	
ピーマン	ナス
オクラ	
ゴーヤ	ハーブ類（パセリ、パクチー、シソ、モロヘイヤ、空心菜、ツユ紫）
インゲン	
ホウレン草・ニンジン	キュウリ
ズッキーニ	トマト
スイカ、ウリ	カボチャ

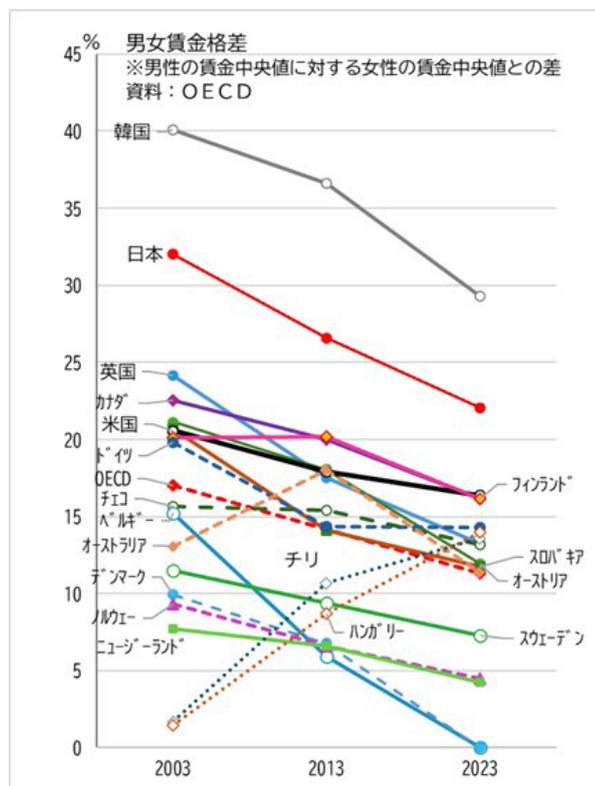
図：野菜栽培の見取り図（縦 10 m×横 6 m）

### ジェンダーギャップの解消

2016年のよかネット記事「総合戦略への期待」の中で、フランスやベルギーの出生率が上昇した背景に男女の賃金格差が小さいことや、「子どもあり、なし」の女性賃金の格差も小さいことが要因の一つではないかと思ひ、日本や韓国の男女の賃金格差や「子どもあり、なし」の賃金格差などを是正していくために、日本の政策として、総合戦略の取組み、世代を越えた取組みに期待したい、と書いた。

その時のデータは2012年のOECDの統計から出されたものだった。あれから10年近くがすぎ、OECD各国の男女賃金格差がどうなったかを調べてみた。（※賃金格差とは男性の賃金中央値に対する女性の賃金中央値との差として定義される格差）

2003年から2023年の20年間の格差数値が記載されている国について整理したのが次のグラフである。



OECDの平均値(17→14→11)をみても、この20年間のトレンドは、男女の賃金格差は是正されていく方向と言える。

その動きとは逆に格差が拡大している国、チリやハンガリーがある。拡大からは是正へ転換したのはオーストラリア、是正が緩やかに変化している国はド

イツなど、いろいろな格差の動きが見られる。英国、カナダ、米国、北欧などは、是正の速度は違うものの、確実に狭まっている。日本、韓国は、もともと男女格差が大きかったため是正が急速に進んでいるようにみえるが、20年前の欧米諸国の格差にも到達しておらず、さらなる是正が必要であろう。

ベルギーは2023年には格差が無くなったため、数値は掲載されていなかった。(2022年は0.9)さらにスウェーデンやデンマーク、ノルウェー、そしてニュージーランドなどの国々は、平均的には格差が見られない国になっていくのであろう。

一方、中国や東南アジア、南西アジアの国々の賃金格差は、経済成長とともに女性の労働参加によって是正されていくと期待されるが、教育の機会均等や、家庭内労働や育児の負担軽減など、多くの課題が横たわっている。

おそらく、20年前の日本や韓国と同等かより大きな格差が今もあると思われる。

ちなみに、賃金格差だけではなく、経済参加・機会、教育達成度、健康・生存、政治的エンパワーメントという4つの分野において、ジェンダー平等の進化をベンチマークしている世界経済フォーラム「グローバルジェンダーギャップ2024」では、世界146カ国の中で、日本はランキング118位、韓国94位である。まだまだ日本は途上のようなのである。

(山辺 真一)

	2003	2013	2023
韓国	40.1	36.6	29.3
日本	32.0	26.6	22.0
英国	24.1	17.5	13.3
カナダ	22.5	20.0	16.1
オーストリア	21.1	18.1	12.0
スロバキア	20.7	14.1	11.8
米国	20.6	17.9	16.4
フィンランド	20.1	20.2	16.1
ドイツ	19.8	14.3	14.3
OECD	17.0	14.2	11.3
チェコ	15.6	15.4	13.2
ベルギー	15.2	5.9	
オーストラリア	13.0	18.0	11.3
スウェーデン	11.5	9.4	7.3
デンマーク	9.9	6.8	
ノルウェー	9.3	6.6	4.5
ニュージーランド	7.7	6.6	4.2
チリ	1.7	10.7	13.6
ハンガリー	1.5	8.7	14.0

※2023・ベルギー・デンマークは達成想定  
資料：OECD Data Explorerより作成

## 自治会副会長よもやま話

### ●町内会・自治会の現在地

町内会・自治会の加入者の減少や、役員の担い手不足の話は、全国各地、都市部、地方部を問わずによく聞く話である。福岡市の令和6年市政アンケート「地域の活動やまちづくり」調査結果から、自治会・町内会の加入状況をみると、「加入している」との回答は約7割、「加入していない」と「わからない」との回答が、それぞれ1割強である。平成26年の同様の調査結果では、「加入している」との回答は約9割であり、約10年で1～2割程度減少している。もっとも、公表されている報告書では、回答者の属性がわからないため、例えば単身で30歳未満の若年世帯等は、「加入している」と回答割合が7割に満たないことが想定される。町内会・自治会に限らず、子ども会や老人会（長寿会）、PTAについても似たような状況だろう。地域を支えてきた各種団体は、加入者の減少と担い手不足に直面し、これといった打開策を見出せないでいる。

「入会することが当たり前」だった時代は遠い過去であり、「なぜ入会しないといけないのか」という問いに対して、会の成り立ちから、目的・役割、そして会費の使い方も含めて、まずはきちんと説明することが求められる。当たり前と言えど当たりのことだが、親が町内会・自治会に加入しておらず、町内会・自治会活動を知らない人も増えている中では、説明させてもらったとしても、なかなか理解を得ることが難しいように感じる。

ちなみに、先ほどの令和6年の調査結果から、自治会・町内会に加入していない理由をみると、「加入を勧められたことがないから」の割合が最も高く過半を占め、次いで「役員になることを負担に感じるから」、「単身、または、長く住む予定がないから」がそれぞれ3割弱を占める。「自治会・町内会が必要だと思わないから」は約1割である。また、自治会・町内会の必要性については、6割以上が「必要である」と回答している。すなわち、この調査結果からは、多くの人が町内会・自治会は必要だと思っているが、勧められたことがないために加入していないということになる。肌感覚とはずいぶん異なる。

### ●私の自治会との関わり

私が住んでいる地区にも自治会があり、約1,000人の居住者がいる。かれこれ10年ほど前から自治会活動に関わっている。そもそもは、引っ越してきた当初に、「持ち回りでやっているから、次はあなたがしてね」と言われたのがきっかけであり、私自身、町内会・自治会に対する抵抗感が無かったので引き受けた。はじめは、市や公民館、自治会からの配布物を配ったり、自治会費を徴収したりする委員からはじまり、2年程務めた。その後、私が住んでいる地区から自治会役員を選出することになり、仕事柄もあって、自ら名乗り出て自治会の役員となった。役員としての最初の仕事は、校区行事や、自治会主催行事の手伝い、そして、防犯・防災のために、月1回の夜回りをする防災委員であり、4年程務めた。そこで役員を退くつもりであったが、自治会会長交代をきっかけに、長く関わっているからとの理由で、一昨年から副会長職を拝命し、自治会活動全般に関わっている。

### ●副会長の役割

私が自治会の中で担っている役割としては、大きく3つある。1つは、会長の補佐であり、役員会や、各地区の委員さんを集めた会議の司会進行である。もう1つは、各種の案内や、様式の作成である。総会の案内や委任状、自治会入会のお知らせ、敬老の日のお知らせ、自治会役員の募集案内、自治会費の出納帳の作成などである。そして、3つ目に全体調整である。これは、3役（会長、副会長、会計）全体で取り組んでいるが、役員間でもそうだし、委員、会員（居住者）間でもそうだが、それぞれ色々な想い、考えがある中で、どうしても判断（決断）しないといけないことがある場合に、出来るだけ多くの人々が満足する方向になるように調整する。いずれも、日々の業務の経験が生きてくる。時間厳守の進行、誰にとっても見やすい、分かりやすい書類の作成、様々な意見がある中での落としどころの提案は、業務そのものだ。その中で、頭を悩ませているのが、加入者の減少と、役員・委員の担い手不足である。確かに、私の地区は高齢化が進んでおり「自治会費（年3,600円）が負担になっている」や、「高齢のため役

員・委員は難しい」との声は聞く。一方で、先ほど、自治会・町内会に加入していない理由として「加入を勧められたことがないから」の割合が最も高いと紹介したが、チラシを作ったり、催しの際に入会を呼び掛けたりということは行っており、行事を増やし、自治会活動をPRする場も増やしている。やっている側からすると、「色々手は尽くしているのだけどなあ」という心境である。そこで常々思うのは、自治会・町内会の加入が当たり前だった時に、あまり良い経験をしていないからではないかということだ。行事を手伝う・参加するのが当たり前、役を引き受けるのが当たり前、会費を払うのが当たり前など、何らか「強制された」経験があることに対して、積極的に関わる気持ちにはなれないだろう。また、若い世帯も、両親が嫌々ながら自治会・町内会の活動等をしてきた姿を見ていたならば、関わる気持ちは生まれないのではないか。

### ●イメージを変えていくために

今の役員は、私も含めてほとんどがフルタイムで働いている。委員も、働いている人が多い。効率よく運営しないと時間が足りないこともあり、役員間、委員間のLINEグループを立ち上げ、情報共有を行っている。自治会内では、なるべくお互いに負担が無いように心がけており、合言葉は「出来る人が、出来るときに、出来ることをする」である。一方で、校区、社会福祉協議会、市、区から色々役、頼まれごとが回ってくる。これらをどうしていくか。ぼちぼち、そのすべてを引き受けられなくなっている。末端(町内会・自治会)が細っているのに、その上部(校区・区・市等)がそのままとなればいつかは崩れてくる。次に考えないといけないのは、末端からみた上部のあり方かなと思いつつ、今日も自治会活動に励んでいる。

(山崎 裕行)

## 表 紙 解 説

本記事は、昨年度より行っている高経年賃貸マンションに関する業務から着想を得たものである。

表紙ならびに本解説の執筆にあたり、不動産情報サービス大手の「LIFULL HOME'S」にて公表されている不動産アーカイブ(<https://www.homes.co.jp/archive/>)よりデータを取得した。この不動産アーカイブは、「過去から現在までのLIFULL HOME'Sに掲載された不動産情報と提携先の地図情報を集積・統合してデータベース化した」(不動産アーカイブHPより引用)ものである。

今回は不動産アーカイブより、福岡市営地下鉄3線各駅より徒歩10分以内かつ2DK以上の間取りをもつ賃貸住宅4,591件を抽出し、データベース化した。

また、地図へのプロットは、Google Maps PlatformのAPIを用いて、取得された住所および名称よりジオコーディングを行い座標を取得している。いずれの工程においても目視による前処理・後処理を行っているものの、一部不正確な情報等が含まれている可能性がある点には留意いただきたい。

### ●路線・駅別の立地状況

次頁に最寄りの路線・駅別の立地状況を示す(表1)。なお、最寄りとは、HPに掲載されていた情報により判定しているため、最近接駅でない可能性もある。また、博多駅・中洲川端駅は空港線に含めた。

まず、全数に対する構成比では、空港線沿線が50.1%で最も多く、次いで七隈線41.9%、箱崎線8.0%であった。箱崎線において極端に割合が低いのは、駅数が少ないこともあるが、九州大学馬出キャンパスや旧箱崎キャンパスが沿線に立地し、1人暮らし向けのワンルームや1LDKの住宅等が多く立地していることが要因と考えられる。

駅別では空港線の大濠公園駅以西や七隈線の薬院大通駅～別府駅にかけてのエリアで比率が高い。

特に西新駅は、駅近くに西南学院大学が立地しているものの、構成比は7.6%と全駅の中で最も高い。また、中村学園大学の最寄りである別府駅も傾向は近い。前述の箱崎線沿線や、福岡大学が立地する福大前駅と傾向が大きく違う点は面白い。

今回は比較可能な公表データがなかったため断念したが、県内（福岡都市圏）出身者比率やひとり暮らし比率等との相関をみると、より興味深い結果につながるものと思われる。

次に、各駅の築年代別構成比をみると、1970年代までのストックについては、博多から中洲、天神、薬院といった都心エリアにおいて比率が高い。

1980年代は、空港線の姪浜～博多駅間および箱崎線が開業したことから、これらの駅周辺において同年代のストックの比率が高い傾向にある。

その後、2000年代になると、七隈線の開業により特に野芥～次郎丸駅間において新規の建設が進んだことが伺える。また、箱崎九大前～箱崎宮前駅においては、2000年代のストックの比率が最も高い。2005年から九州大学箱崎キャンパスの伊都移転が開始され、これまでの学生向けの賃貸から地下鉄・JRの2路線が利用できる交通至便性を活かしたファ

表1：路線・駅別の立地状況

路線・駅	件数・構成比		年代別構成比							
	件数	構成比	1970年以前	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代	2020年代	総計
福岡市地下鉄空港線	2,302	50.1%	1.0%	9.2%	28.8%	22.7%	20.2%	15.2%	2.9%	100.0%
福岡空港駅	42	0.9%	0.0%	11.9%	9.5%	42.9%	23.8%	9.5%	2.4%	100.0%
東比恵駅	151	3.3%	0.7%	8.6%	31.8%	14.6%	21.2%	20.5%	2.6%	100.0%
博多駅	98	2.1%	3.1%	17.3%	22.4%	13.3%	25.5%	16.3%	2.0%	100.0%
祇園駅	33	0.7%	3.0%	6.1%	30.3%	27.3%	24.2%	6.1%	3.0%	100.0%
中洲川端駅	63	1.4%	6.3%	22.2%	33.3%	17.5%	11.1%	7.9%	1.6%	100.0%
天神駅	35	0.8%	0.0%	11.4%	54.3%	2.9%	20.0%	11.4%	0.0%	100.0%
赤坂駅	166	3.6%	3.0%	19.3%	38.0%	9.0%	18.1%	11.4%	1.2%	100.0%
大濠公園駅	216	4.7%	2.8%	11.6%	25.0%	19.9%	18.5%	18.5%	3.7%	100.0%
唐人町駅	264	5.8%	0.4%	12.1%	25.8%	21.6%	20.1%	16.3%	3.8%	100.0%
西新駅	347	7.6%	0.6%	8.1%	27.7%	25.6%	19.6%	16.1%	2.3%	100.0%
藤崎駅	283	6.2%	0.4%	5.7%	21.6%	30.4%	17.3%	20.5%	4.2%	100.0%
室見駅	292	6.4%	0.0%	3.4%	38.7%	27.1%	19.2%	9.6%	2.1%	100.0%
姪浜駅	312	6.8%	0.0%	4.5%	26.6%	25.6%	25.3%	14.1%	3.8%	100.0%
福岡市地下鉄箱崎線	366	8.0%	0.5%	9.8%	23.8%	19.7%	23.5%	16.9%	5.7%	100.0%
貝塚駅	40	0.9%	0.0%	15.0%	15.0%	25.0%	25.0%	17.5%	2.5%	100.0%
箱崎九大前駅	63	1.4%	0.0%	9.5%	20.6%	14.3%	36.5%	15.9%	3.2%	100.0%
箱崎宮前駅	89	1.9%	0.0%	5.6%	29.2%	14.6%	31.5%	18.0%	1.1%	100.0%
馬出九大病院前駅	52	1.1%	0.0%	9.6%	17.3%	25.0%	17.3%	15.4%	15.4%	100.0%
千代県庁口駅	52	1.1%	0.0%	11.5%	25.0%	19.2%	15.4%	19.2%	9.6%	100.0%
呉服町駅	70	1.5%	2.9%	11.4%	28.6%	24.3%	11.4%	15.7%	5.7%	100.0%
福岡市地下鉄七隈線	1,923	41.9%	1.5%	10.9%	24.1%	23.2%	23.7%	13.5%	3.2%	100.0%
櫛田神社前駅	21	0.5%	0.0%	28.6%	19.0%	14.3%	19.0%	19.0%	0.0%	100.0%
天神南駅	34	0.7%	5.9%	17.6%	44.1%	8.8%	17.6%	5.9%	0.0%	100.0%
渡辺通駅	116	2.5%	6.0%	12.9%	25.9%	16.4%	21.6%	12.9%	4.3%	100.0%
薬院駅	177	3.9%	0.6%	15.3%	33.3%	19.2%	19.8%	10.7%	1.1%	100.0%
薬院大通駅	223	4.9%	2.2%	15.7%	31.4%	19.7%	15.2%	13.0%	2.7%	100.0%
桜坂駅	133	2.9%	0.8%	10.5%	23.3%	24.1%	19.5%	18.8%	3.0%	100.0%
六本松駅	225	4.9%	0.9%	10.2%	29.3%	24.0%	20.9%	9.3%	5.3%	100.0%
別府駅	250	5.4%	0.8%	8.4%	21.2%	27.2%	25.6%	13.2%	3.6%	100.0%
茶山駅	103	2.2%	4.9%	6.8%	25.2%	24.3%	20.4%	13.6%	4.9%	100.0%
金山駅	79	1.7%	0.0%	16.5%	22.8%	34.2%	17.7%	8.9%	0.0%	100.0%
七隈駅	58	1.3%	1.7%	8.6%	25.9%	25.9%	27.6%	8.6%	1.7%	100.0%
福大前駅	13	0.3%	0.0%	15.4%	30.8%	0.0%	30.8%	23.1%	0.0%	100.0%
梅林駅	37	0.8%	0.0%	5.4%	40.5%	18.9%	8.1%	27.0%	0.0%	100.0%
野芥駅	117	2.5%	1.7%	6.8%	17.1%	23.9%	32.5%	16.2%	1.7%	100.0%
賀茂駅	154	3.4%	0.0%	1.3%	13.6%	18.8%	45.5%	16.9%	3.9%	100.0%
次郎丸駅	164	3.6%	0.0%	9.1%	7.3%	34.8%	28.0%	15.9%	4.9%	100.0%
橋本駅	19	0.4%	0.0%	42.1%	21.1%	10.5%	15.8%	5.3%	5.3%	100.0%
総計	4,591	100.0%	1.2%	10.0%	26.4%	22.7%	21.9%	14.6%	3.2%	100.0%

ミリー向け賃貸への転換が進んだものと考えられる。

### ●建物名称と年代の相関

次に、建物名称と建築年代について、テキストマイニングソフトを用いて共起ネットワーク図を作成した。（次頁図1）

1980年頃までは、「ビル」や「コーポ」、「ハイツ」「マンション」といった単語を含むケースが多くみられる。特に70年代初期頃は「ビル」や「コーポ」といった単語が、80年代に近づくにつれて、「マンション」や「ハイツ」といった名称が増えていく傾向にある。なお、「マンション」を含む建物は、2000年代以降になると大きく減少し、「ライオンズマンション」や「コアマンション」といった一連のシリーズとなっているものが大部分を占める。

1990年代以降では、住宅を意味する単語として「レジデンス」が一定使われているほか、「パーク」や「コート」といった“庭（園）”を意味する単語が台頭

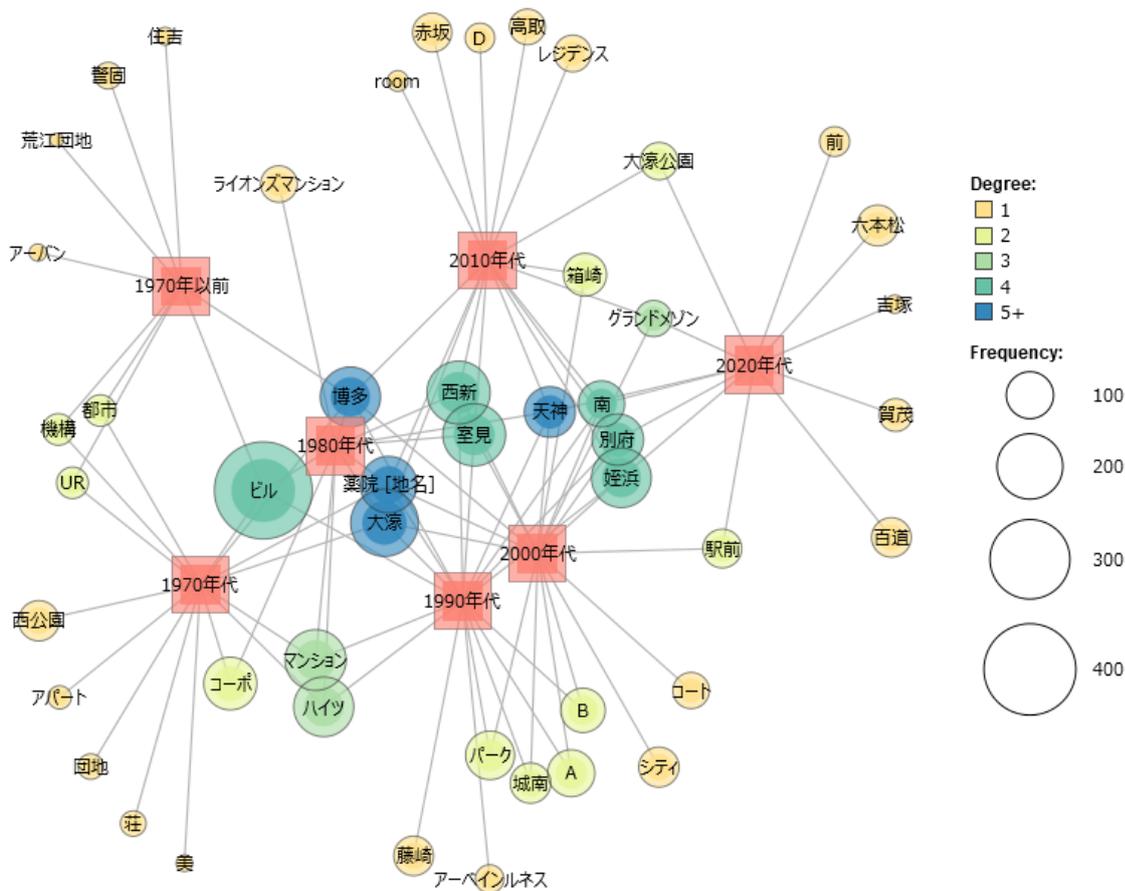


図1：建物名称に頻出する単語と建築年代との共起ネットワーク図

してきている。「ただ住む」のではなく、「豊かに住む」ことを想起するような名称が増えている。

さらに2000年以降は、フランス語やイタリア語等を冠した住宅が多く出現している。これらは、住宅・居住を示す単語以外にも「希望」「光」「未来」など、「(その暮らしにより訪れる) 将来の希望」を根基する単語が多い。

また、地名において「博多」や「薬院」「大濠」は1980年頃より名称に冠される傾向にある。

その後、1990年頃には「西新」や「室見」、さらに2000年代には「姪浜」や「別府」「天神+南」といった地名が多くみられる。

このうち、前述の通り、空港線沿線の地名については、地下鉄が開通した80年代と名称として多く使われた時期にギャップがみられ、地下鉄開通により交通利便性が向上したことから徐々にそのエリアのステイタスが上がった結果、その地名に関するものの価値が向上したことが伺える。

一方で、「別府」や「天神南」においては、七隈線の開業とほぼ同時期にそれらの地名を冠する建物が建設されており、地下鉄開業前より、すでに一定のエリアのブランドがある中で、地下鉄の開業が追い風になったケースであることが推察される。

よかネット No. 157 2025.5

(編集・発行)

(株)よかネット

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3番8号  
福岡パールビル8階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

<http://www.yokanet.com>

mail: info@yokanet.com

(ネットワーク会社)

(株)地域計画建築研究所

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6205-3600

東京事務所 TEL 03-5244-5132

名古屋事務所 TEL 052-462-1030